

主催 邦楽連合会

社団法人 義太夫協会

中央区銀座六の十八の二演舞場B二
電話(三五四二)五四七一番

清元協会

中央区銀座七の十五の四のB一
電話(三五四二)四〇九七番

財団法人 古曲会

中央区銀座八ノ六ノ三 新橋会館
電話(三五七二)〇二一六番

新内協会

新宿区大久保二の二三の二
電話(三三〇〇)四六五三番

常磐津協会

相模原市相模大野二の十九の六
電話(〇四二七)四三・〇二七

社団法人 長唄協会

中央区銀座二の十一の十九の四
電話(三五四二)六五六四番

社団法人 日本三曲協会

港区赤坂二の十五の十二の四〇三
電話(三五八五)九九一六番
(五十音順)

後援 東京都

平成四年三月六日(金)

朝日生命ホール

第一部 正午開演
第二部 午後四時開演

三時半終演
七時半終演

'92 都民芸術フェスティバル

第二十二回 邦楽演奏会

— 邦楽名曲選 —

'92都民芸術フェスティバル参加公演（平成3年度東京都助成公演）一覧

分野	種目	演目	期日・会場	入場料金	問合せ先
音	オペラ	ベッリーニ「ノルマ」 (原語上演) (日本オペラ振興会)	2/23・2/25・2/27・2/29 東京文化会館大ホール	15,000～1,500円	(財)日本オペラ振興会 (3224)9633
		ビゼー「カルメン」 (原語上演) (二期会オペラ振興会)	3/6・3/7・3/8 東京文化会館大ホール	12,000～1,500円	(財)二期会オペラ振興会 (3796)4711
		オッフェンバック喜歌劇「天国と地獄」 (東京室内歌劇場)	3/20(午後・夜の部) 北とびあさくらホール	5,000円	東京室内歌劇場 (3350)5926
楽	室内 オーケストラ 楽	第23回 都民のための コンサート	オーケストラ 1/14～3/11 東京芸術劇場大ホール	3,000・1,000円	(社)日本演奏連盟 (3437)6837
			室内楽 2/23・3/7・3/15 東京文化会館小ホール	3,000円	
楽	ポップ	「シャンソン ハイライト'92」	3/6 よみうりホール	2,500円	(社)日本音楽家協会 (3585)3903
	邦楽	第22回邦楽演奏会	3/6(午後・夜の部) 朝日生命ホール	1,500円	邦楽連合会(義太夫協会) (3541)5471
演	新劇	田中千禾夫「マリアの首」 (合同公演)	1/23～2/2 パナソニック・グループ座	4,120・2,575円	新劇団協議会(3341)8151 地人会(3354)1279
		宮沢賢治「録河鉄道の夜」	1/16～1/29 都市センタービル 他5会場	定時制高校生貸切	東京演劇アンサンブル (3920)5232
劇	児童劇	「絵姿によぼう」他21演目 参加団体 10団体	1/8～3/29 青山円形劇場 他68会場	当日売3,000～1,200円 前売2,500～1,000円 団体割引有り	日本児童・青少年演劇団協議会 (3409)1797
			バレエ	「アンナ・カレーニナ」 東京文化会館大ホール	3/12・3/13・3/14 10,000～2,000円
踊	現代舞踊	「傾いていく風景」 「ライオン」 「水の墓標」	1/20・1/21 東京文化会館大ホール	4,000～2,000円	(社)現代舞踊協会 (3400)4544
			第35回 日本舞踊協会公演	2/24・2/25・2/26 浅草公会堂	5,000円
古典芸能	能	都民能	1/18 国立能楽堂	3,000円	(社)能楽協会(3574)6441
		式能	2/16 国立能楽堂	6,000円	
	民俗芸能 寄席芸能	第23回 東京都民俗芸能大会	1/8・1/9 東京芸術劇場中ホール	無料招待	東京都民俗芸能大会実行委員会 (3576)8630(宮尾)
		第22回 都民寄席	2/14～3/8 東村山市中央公民館他8会場	無料招待	都民寄席実行委員会 0423(81)5534(大石)

○これらの個々の公演の詳細に関するお問合せは各団体へ、都民芸術フェスティバル全般にわたるお問合せは東京都教育庁生涯学習部文化課(電話5320-6861)へお願いします。

'92 都民芸術フェスティバルに寄せて

東京都知事 鈴木 俊一



都民芸術フェスティバルのシーズンがやってまいりました。このフェスティバルは、へすぐれた芸術を、心ゆたかな、くらしの中へをキャッチフレーズとして、東京都が芸術文化団体の公演を助成することにより、都民の皆様に優れた舞台芸術を鑑賞していただくという目的で始めた催しで、今回で第24回を迎えました。

演者の方々の並々ならぬ意欲と都民の皆様の熱い声演に支えられ、このフェスティバルは、東京の初春を飾るにふさわしい多彩な文化的行事として定着しております。誠に喜ばしい限りです。

私は、いま、ふれあいとうるおいを大切に「マイタウン東京」づくりに全力を注いでおります。なかでも芸術文化の振興は、私たち豊かな心とゆとりのある生活を与えてくれるものとして重要な施策と考えており、江戸東京博物館、新美術館の建設を進めるなどその振興に力を注いでいるところでもあります。この都民フェスティバルを他の文化施策とともに、都民の皆様の要望と期待に十分応えられるよう、また国際的にも誇れる催しとして、今後とも一層充実・発展させてまいりたいと考えております。

この催しに、一人でも多くの皆様が参加され、優れた舞台芸術を心ゆくまで鑑賞していただきたいと存じます。このフェスティバルに参加し、東京都の芸術文化の振興にお力添えくださっている邦楽連合会のみなさんの御活躍を心から願っております。

第一部 番

組 (十二時開演)

一、三曲 桜 狩

佐々木	後藤	小林	市川	渡辺	竹村	小池	加藤	庄司	唄	箏	萩岡	松韻
萩祥波	萩登波	萩芙美	萩倭文	岡華	岡桜	萩麗春	萩悠紀	萩園	唄	小鼓	三弦	花井
									堅田	藤尾	井宏	生佳
									喜三久	竹内	萩鳳世	
									岩内	酒本	萩千世	
									滝本	小井	萩富花	
									竹芳生			

二、新内 明烏夢泡雪(雪責め)

浄瑠璃 富士松 魯遊

三味線 鶴賀 若狭
上調子 新内 若三郎

三、萩江節 深川八景

同	同	唄
萩江	萩江	萩江
由美	香幸	ちか
		三味線
同	同	萩江
江惠	江都	江り
美	世	よ

四、清元 女夫酒替奴中仲（鞍馬獅子）

浄瑠璃	清元	梅多寿	三味線	清元	梅喜代美
同	清元	梅惠寿	同	清元	益代
同	清元	梅美秋	同	清元	香葉
同	清元	梅美春	上調子	清元	妙葉
同	清元	梅千香			

五、廓の仇 夢（権八）

浄瑠璃	常磐津	松尾太夫	三味線	常磐津	文字兵衛
同	常磐津	津太夫	同	常磐津	八百八
同	常磐津	清若太夫	上調子	常磐津	紫弘

六、義太夫 御所桜堀川夜討

— 弁慶上使の段 —

浄瑠璃	竹本素八	三味線	鶴澤	駒登久
-----	------	-----	----	-----

七、長唄 勧進帳

唄	杵屋吉十郎	三味線	杵屋佐喜
同	松永鉄庄治	同	杵屋邦寿
同	杵屋鉄近	同	松永鉄九郎
同	杵屋佐喜三郎	同	杵屋鉄助
同	松永鉄裕輝	同	杵屋佐之助

囃子

笛	鳳声	勲
小鼓	望田	宏
同	望田	喜雄
同	望田	喜久
大鼓	望月	津之

第二部 番 組 (午後四時開演)

一、常磐津 祝言式 三番 叟 (式三番)

浄瑠璃	常磐津	小文字太夫	三味線	常磐津	菊助
同	常磐津	八重太夫	同	常磐津	一寿郎
同	常磐津	光勢太夫	上調子	常磐津	啓寿郎
同	常磐津	和光太夫			

二、義太夫 雲雀山 古跡松

— 中将姫雪責めの段 —

浄瑠璃	竹本駒之助	三味線	鶴澤重輝
		胡弓	鶴澤悠美

三、一中節 東山掛物揃

浄瑠璃	宇治紫文	三味線	宇治文蝶
同	宇治文美子	同	宇治文好
同	宇治文声		

四、新内 応挙の幽霊

浄瑠璃	鶴賀喜代寿	三味線	新内仲三郎
		上調子	鶴賀喜代寿郎

五、尺八鹿の遠音

同	同	同	尺八
竹村皓盟	長谷川厚盟	大山素盟	山口五郎
同	同	同	尺八
徳丸十盟	松山龍盟	向後篁盟	田中康盟

六、清元弥生の花浅草祭(三社祭)

同	同	同	浄瑠璃
清元延志佐	清元延正路	清元延荣一	清元延勇輝
上調子	同	同	三味線
清元延古摩寿	清元延荣美代	清元延古摩	

七、長唄神田祭

同	同	同	唄
赤木直明	福田克也	皆川健男	宮田哲男
同	同	同	三味線
望月左郎	田中佐幸	望月左吉	福原百之助
同	同	同	三味線
			菊岡裕晃
			味見亨
			杉浦弘和
			関毅

曲目解説(演奏順)

(解説 竹内道敬)

第一部

三曲 桜

狩

山田検校作曲の中七曲の一。越前家の姫君の作詞で、松平定信(白河樂翁侯)が、山田検校を困らせようとしてこの歌詞を渡したといわれている。内容は桜の花見に行くことを扱った古歌・故事を綴

ったもので、謡曲「右近」「吉野天人」をもとにしている。ともに都人が桜を見に行き、そこで美しい女性に会って言葉を交わすというものだが、その主旨を生かして歌詞を借り、桜を求めて都を出て桜の下で一日を過ごし、夕方になり帰る段になって、なお名残を惜しむという内容になっている。二つの合の手のうち、はじめのは桜を見に行く人の歩みをあらわし、あとは豪華絢爛たる春の山中の描写となっている。花に先がけての演奏を楽しんでいただきたい。

新内明 烏 夢 泡 雪(雪責め)

明和六年(一七六九)七月、三河島で伊勢屋伊之助と吉原の遊女三吉野の心中事件があった。それをもとに鶴賀若狭掾が作詞作曲した新内の傑作。安永元年(一七七二)ごろに成立。春日屋時次郎は、山名屋の浦里となじみを重ね、借金で首がまわらなくなり、死のうと思ひ浦里の部屋に隠れていたが、遣り手のかやに見つけられ、浦里は亭主に引き立てられ、時次郎は表に放り出されてしまう(ここまでは通称「部屋」)。雪の降りしきる山名屋の内庭。黒板塀に梅の古木に、派手な衣裳の遊女浦里と禿のみどりが縛られている。二人をきびしく折檻して亭主は退場。そのあとで時次郎を思っている浦里のクドキが中心だが、隣りの二階からは三下りのめりやすが聞こえてくる。やがて屋根伝いに時次郎が助けにくるところまでだが、これが夢であったという設定。「蘭蝶」とならぶ新内の代表曲で、全曲演奏すると一時間半以上かかる。時間の都合で、その一部「雪責め」を聞いていただきたい。

荻江節 深川八景

日本の八景のもとには中国の瀟湘八景で、それになぞらえて近江八景が作られ、さらに同じように江戸の八景が見立てられ、浮世絵や邦楽に歓迎された。「吉原八景」「廓八景」「吾妻八景」などがある。なかでも深川といえは粋な場所として知られていたもので、その名所を、近江八景になぞらえて唄った曲。幕末のころに出来たものらしい。全曲三下りで、荻江節らしい特色が十分に発揮されている。

清元 女夫酒替奴中仲（鞍馬獅子）

本名題は「女夫酒替ぬ中仲」。安永六年（一七七七）十一月、江戸市村座初演。場所は伊勢の国御裳裾川のほとり。静御前は義経が殺されたと聞いて狂気し、父の形見の薙刀を持ってさまよい歩いている。そこへ田舎回りの大神楽が通り掛かったので、獅子舞を所望し、義経に逢わせてくれと頼むという場面。失われてしまったが、このあと大神楽実はお腕の喜三太が鏡を出すと、その威徳で静御前の狂気が直る。古い顔見世狂言の一部で、もと富本で初演されたが、天保七年（一八三六）からは清元に移されている。中村重助作詞、名見崎得治作曲。

常磐津 廓の仇夢（権八）

鳥取の城主松平相模守の家来本庄助太夫が、同僚の平井正右衛門を侮辱というので、その息子権八はその夜本庄方へ押しかけ、助太夫を殺害して江戸へ逃げた。江戸で徒士奉公などをしていっているうちに、吉原で遊びを覚え、三浦屋の小紫と深い仲になった。遊びの金に困ると市内で強盗殺人をはたらいたが、やがてお尋ね者となり、いったんは捕えられたが脱走、関所破りなどしているうちにふたたび捕えられ、鈴ヶ森ではりつけに処せられたという。時代は三十年ほど違うが、これに俠客幡随院長兵衛をからめたのが歌舞伎の「鈴ヶ森」で、芝居で有名になった。「権八」といえば清元に名曲があるが、それらをもとに竹柴金作が脚色、十四世文字太夫が作曲、大正八年に発表したもの。捕えられた権八が処刑されようとする。それは遊女小紫の部屋で見た夢であったが、それが正夢で、大勢の捕り手に囲まれる。

義太夫 御所桜堀川夜討（弁慶上使の段）

元文二年（一七三七）正月大阪竹本座初演、文耕堂、三好松洛の合作。「平家物語」「義経記」などをもとにして、土佐坊昌俊が義経を堀川御所に襲撃したことを中心に、伊勢三郎、弁慶、静御前などに関する伝説を脚色したもの。とくにこの「弁慶上使」は三段目にあたり、弁慶が生涯に一度の恋

愛が悲劇を生む場面である。義経の妻卿の君の首を、弁慶が受け取りにやってくる。卿の君を守っている侍従太郎は、物縫師おわさの娘信夫を身代わりに立てようとする。信夫は承知するが、母親のおわさは、かつてある男と契って生んだ娘なので、その父親と逢うまでは、たとえ主人のためでも犠牲にすることは出来ないという。そのときこれを隠れ聞いていた弁慶は信夫を刺し、自分こそ信夫の父であると告白し、おわさと取り交わした片袖を見せる。

長 唄 勧 進 帳

天保十一年（一八四〇）三月、江戸河原崎座で初演された「勧進帳」は、七代目市川團十郎（このときすでに海老蔵）の弁慶で、歌舞伎十八番の一とした記念すべき作品であったが、一般には歓迎されなかった。その後たびたび再演され、とくに七代目松本幸四郎は、生涯に一六〇〇回以上も上演したといわれ、今日の流行のもとを作った。その長唄の部分だけを演奏するので、これだけをきいてもよくわからない。しかしもとの芝居がよく出来ていて、だれでも知っているし、またその長唄が傑作なので、長唄だけの演奏で楽しめる。もちろん、舞台を想像しながらということになるが、段どりもよく、四代目杵屋六三郎の苦心の作曲が生きているといえよう。

第 二 部

常磐津 祝言式 三番叟（式三番）

日本の儀式舞踊には、基本に翁・千歳・三番叟というのがある。翁の起源は不明だが、これは神の化身で、天下泰平を祈り、千歳はたいいていその露払いということになっている。そして三番叟は翁の「もどき」であり、もつとも親しみやすい。さらに三番叟は五穀豊饒を祈るので、儀式舞踊のなかでは、もつともポピュラーで、古くからいろいろな変形も作られてきた。この常磐津曲は、能の翁の舞と三番叟のくだりを、立川焉馬が脚色、岸沢右和佐が作曲したもので、文化十二年（一八一五）七月江戸中村座で初演された。荘重で格調高い曲で、第二部の幕開きにふさわしい演奏が期待される。

義太夫雲雀山古跡松 — 中将姫雪責めの段 —

元文五年（一七四〇）二月、大阪豊竹座で初演。並木宗輔作。大和の当麻寺に残る中将姫伝説を素材にし、能の「雲雀山」「当麻」、古浄瑠璃の「中将姫之御本地」などを集大成したもの。王位を狙う長屋王子の陰謀に、岩根御前が継子中将姫を虐待することを脚色したもの。とくに三段目の「雪責め」は有名で、寛政三年（一七九七）にここだけを「中将姫古跡の松」として上演してから知られるようになった。称徳天皇を調伏して、大炊の君の即位を阻もうとする長屋の王子らは、右大臣横萩豊成の娘中将姫の預かる千手観音を、その継母岩根御前に奪わせる。そうして逆に中将姫に仏像を出せと責め叩く。豊成の臣右京之進の妻浮舟、久米の八郎の妻桐の谷らは、しめし合わせて姫を死んだと見せかけ救い出し、鷗山へかくまう。

一中節 東山掛物揃

嘉永五年（一八五二）閏二月、十寸見東觚が九代目河丈を襲名したときの名披露目浄瑠璃。河東節

との掛合いで初演されたが、今は別々に演奏されることが多い。全体は足利義政が京都東山下館で、近習の人々とともに愛蔵の名画十幅を掛け並べ、鑑賞するという趣向。その一つ一つの絵の内容が、一中節と河東節と交互に演奏され、めでたく結びとなる。歌詞は初代宇治紫文齋の作といわれ、河東節は五代目山彦河良が、一中節は紫文齋が作曲したものといわれる。四番の卒塔婆小町が一中節のポイントになっている。

新内 応 拳 の 幽 霊

新内節には、昔からチャリものといって、滑稽な題材を扱った作品が多い。たとえば「不心中」「弥次喜多」などで、邦楽では珍しい。しかしこの滑稽ものは、邦楽を親しみやすい、分かりやすいものにしていくことも事実である。この作品は、落語で有名な「応拳の幽霊」を演者である鶴賀喜代寿が脚色・作曲したもので、新内人らしくその味を生かして、十分に楽しめるようになっていく。内容については今さらいうまでもなく、面白く楽しいもの。存分に笑っていただきたい。

尺八鹿の遠音

琴古流尺八の古典本曲。流祖黒沢琴古が、一計子という虚無僧から伝授を受けたと伝えられているが、それ以上の起源は不明。とにかく琴古流本曲三十六曲中もつとも親しまれ、琴古流の代表曲というだけでなく、尺八曲として「鶴の巢籠」とならんでよく知られている。秋の深山に遠く聞こえる鹿の鳴声の描写を主題にしたもので、描写的性格と音楽的な華やかさをもつ。一管、あるいは二管で奏されるのがふつうだが、美しい旋律を多く含むので、今日のように大勢で演奏することも可能である。なお明暗流にも同名の曲があるが、まったく別曲である。

清元弥生の花浅草祭（三社祭）

江戸のお祭りといえば、神田祭と山王祭が代表で、西暦でいうと奇数年が神田祭、偶数年が山王祭ときまわっていて、隔年に本祭が行われていた。しかし江戸の祭りはそれだけではなく、氷川神社や浅

草の三社祭も負けずに盛んで、とくに三社祭は有名であった。祭神は、浅草観音の出現にゆかりのある浜成、武成、友成（あるいは桧前、浜成、武成）の三神という。この清元「三社祭」は、もと常磐津と上下になっていたが、下だけが残った。場所は宮戸川。二人の漁師が網を打っていると、天から善玉と悪玉が降ってきて乗り移り、踊りになるといふもの。当時流行していた心学を巧みに取り入れて、内容的にも奇抜な、そして軽快な曲になっている。天保三年（一八三二）三月江戸中村座初演というから、江戸でもつともこうした祭礼が盛んだった様子を反映している。二世瀬川如臯作詞、清元齋兵衛作曲。

長唄神田祭

江戸の祭礼がもつとも盛んに行われていたのは、およそ天保（一八三〇—四〇）のころで、同十二年にはあまりに派手だということで、幕府に禁止されてしまった。しかし禁止されても、規模を縮小した形にして、かなりなものが行われていたらしい。同名の清元曲は、その盛んだった時の様子を描い

ている。祭礼の伝統はおよそ関東大震災ごろまでは続いていたが、現在ではその面影も薄れてしまった。宵から町内には神酒所が設けられ、明けるといよいよ祭りである。お祭り番付が発行され、山車が出る。踊り屋台、手古舞、木遣りと賑やかに続く。そうした江戸の気分を巧みに脚色したもの。長唄研精会百回記念として、幸堂得知作詞、杵屋六四郎・吉住小三郎作曲で明治四十四年十月に発表された。もと「百夜車」という題の上下の曲で、上が菊尽しの曲だったがあまり流行せず、この下の巻「神田祭」が歓迎されている。

御 礼 邦 楽 連 合 会

本日はようこそおでかけ下さいまして、ありがとうございます。何かと不行き届きの点もございまして、お許しを願ひまして、どうかごゆっくりとお楽しみ下さいますよう、お願いを申し上げます。

今までには、このようにしてまとめて御観賞していただく機会は、少なかったように思います。その少ない機会を大切にしようと、出演者も一生懸命でございます。これからも、どうか続けて邦楽に変わらぬ御支援をいただけますように、お願い申し上げます。

来年は、都合により会場が変更になります。池袋駅西口の東京芸術劇場中ホールで、三月五日(金)に開催する予定でございます。番組がきまり次第、御案内をお送りいたしますので、はさみこみのアンケート用紙に、おところ、おなまえをお書き込みの上、受付にお渡し下さいますよう、お願い申し上げます。また、今日おきき下さいました御感想や御意見などもお寄せ下さいますよう、よりよい邦楽のために御指導を賜りますよう、合せてお願い申し上げます。